

7 透析センター

2014年度は、腎臓内科常勤医は4名(小林絵美医長、滝本千恵医長、宍戸崇医長、4/1～9/30 山口慎太郎副医長、10/1～3/31 森本耕吉副医長)となりました。また、済生会習志野病院より腎臓疾患の勉強のために菊地医師が1年間非常勤医として研修を行いました。看護体制は師長は前年度と同様に専門病棟である7西病棟と兼任で宮崎幸子師長が努め、常勤5名、臨職3名体制となりました。また臨床工学技士は常勤4名、臨職1名体制の継続となりました。

前年度と同じく、月水金は2クール(午前・午後)、火木土は1クール(午前)の血液透析の施行ならびに出張透析機器1台でのセンター外での急性血液、浄化療法の対応をしており、2014年度の当院での新規透析導入数は急性期導入5例、慢性期導入24例(うち腹膜透析導入2例)、透析離脱者は6例、維持透析施行のため通院透析クリニック紹介が11例、透析可能長期療養型病院への転院が3例でした。近隣透析クリニックからの入院加療依頼は45例、また持続的血液透析濾過(CHDF)施行6例、エンドトキシン吸着8例、血漿交換14例、腹水濃縮静注21例施行いたしました。透析センターでの延べ血液透析・急性血液浄化療法施行数は5524件、腹膜透析患者数は16名でした。

前年度に引き続き、腎臓内科病棟と透析センターでのカンファレンスを合同で行うことにより病棟とセンター間での情報共有・連携を充実させ、診療の質の向上をはかっています。また従来通り定時の血液透析施行と並行して、透析センター看護師が中心となった保存期腎不全患者向けの個別教育、外来患者様への慢性腎臓病教育のためのチーム医療などを通しての保存期腎不全から末期腎不全・透析導入に至る、全ての段階の患者様の診療を可能とする体制を整えています。

2014年度は患者・院内スタッフ向けの透析センター主催の勉強会を4回施行いたしました。

今後も当センターは今まで同様にチーム医療・地域連携の充実を図り、地域医療に貢献していく所存です。

(文責 内科医長 小林 絵美)

学会・研究会発表

千葉真弘、前田奈緒美、篠原悦子、喜多肯登美、宍戸崇、滝本千恵、小林絵美：シリンジポンプ過負荷圧のモニタリングは、ダイアライザ入口圧モニタの代替となりえるか？

第59回日本透析医学会学術集会・総会 2014年6月14日(神戸)

透析センター院内講演会

2014年度第1回(5月22日)

- ・小林絵美「血圧のお話」
- ・前田奈緒美「透析患者さんのフット血圧」

第2回(7月24日)

- ・山口慎太郎「透析における検査値を読み解く」
- ・前田奈緒美「我が国の慢性透析の現況」

第3回(11月27日)

- ・宍戸崇「腎臓病と栄養」
- ・内藤祥子「災害時の対応について」

第4回(2015年2月26日)

- ・滝本千恵「透析療法について」
- ・篠原悦子「Let's 自己管理！」